

Ⅱ建設的な野党として、要求実現の立場から、政治のゆがみをただしますⅡ

「近所のみなさん、日本共産党です。」

自民・公明政権を退場させた歴史的な総選挙から、二週間余りたちました。

民主党中心の新しい政権ができたら(できて)、どこがどう変わるのか、多くの方が期待と不安を感じながら、考えておられるのではないのでしょうか。

みなさん。

日本共産党は総選挙の最中から、民主党中心の政権ができたら、「建設的な野党」として「良いことには協力、悪いことにはキツパリ反対、問題点はただす」という立場を、明らかにしてきました。

十日に行われた、日本共産党の志位和夫委員長と民主党の鳩山代表との党首会談は、このことを直接伝える機会となりました。

志位委員長は、労働者派遣法の改正や、後期高齢者医療制度の撤廃、障害者自立支援法の「応益負担」の廃止、生活保護の母子加算の復活、高校授業料の無償化など、「良いことには、新政権と協力して実現をはかりたい。その際、よりよいものにしていくための修正点も提起していきたい。妨害する動きに対しては共同してたたかいたい」と言いました。鳩山代表は、「よいものには協力するということは、ありがたいことで感謝する」、「議論を通じてよいものに仕上げっていくことは大事だ」と応えました。また、「意見のあるものに最後まで反対するのは当然だ」とも応えました。

暮らしをよくする願いを実現するために、国民みんなの共同する力を大いに発揮して、政治を動かしていこうではありませんか。日本共産党も力いっぱい頑張る決意です。

「近所のみなさん。」

日本共産党の志位和夫委員長と民主党・鳩山代表との党首会談では、温室効果ガスの削減をめざす環境問題と、核兵器を「持たず、つくらず、持ち込ませず」という非核三原則に反する「日米核密約」問題で、重要な一致をみることもできました。

民主党は、温室効果ガスの中期削減目標について、「二〇二〇年までに九〇年比で二五%減を目標とする」立場を明らかにしました。国連の気候変動サミットで、日本の新しい目標を世界に宣言することも明らかにしています。

日本共産党は、民主党のこうした立場を、大いに歓迎したいと思えます。

財界は、二五%削減について、「荒唐無稽」だとか「国益に反する」とか言って、非難の声をあげ、あげくの果てに、「削減目標を大きくすればするほど、家庭に大きな負担がかかる」と、責任転嫁までしています。

しかし、みなさん。温室効果ガスの発生源をみると、家庭部門の比率は、自家用車を含めても十一%です。家庭での対策も大事ですが、排出の九割を占める発電所や工場など産業部門対策こそ決定的なのではないでしょうか。

日本共産党は、国際社会の一致した努力に背を向ける、財界の横暴を許さないで、大規模な排出源の法的な規制や、自然エネルギーの普及など、建設的な議論と運動を進めます。

みなさん。

「非核三原則」に反する「日米核密約」問題では、既に日本共産党が持っている資料を提供し、協力しましたが、鳩山代表も、政権発足後に調査し、公表することを明らかにしました。

この「核密約」と一体のものとして、いわゆる「核の傘」論があります。今日、米ソ対立がなくなつて、世界の軍事同盟は次々となくなつたり、縮小したりしていて、「核の傘」にしがみつくと国はごく一部しかなくなりました。

日本共産党は、「核密約」を公開し、廃棄して、「核の傘」から離れ、「非核の日本」をつくるために、全力を尽くします。核兵器廃絶の先頭にたつ日本をつくるために、力をあわせましょう。

長い自民党政治のもとで進められた「財界主導」、「軍事同盟絶対」という、政治のゆがみをただして、政治を前に進めるために、力を合わせようではありませんか。ありがとうございました。